

外国語（英語）科における指導と評価の一体化

～自己調整する力の育成を目指した学習履歴の利活用～

北海道教育大学附属函館中学校 匂坂 卓雄, 佐々木 ちひろ

1 はじめに

中央教育審議会が令和3年1月26日に公表した「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」では、「Society5.0時代」の到来を予期し、ICTを活用することで「一人一人の生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにする」ことが必要と述べられた。

また、2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿を2つの軸で示した。1つめは、ICT環境の活用、少人数によるきめ細かな指導体制の整備を進め、「個に応じた指導」を充実していくことが重要とした「個別最適な学び」である。2つめは、個別最適な学びが「孤立した学び」に陥らないよう、探究的な学習や体験活動等を通じ、子供同士で、あるいは多様な他者と協働しながら、他者を価値ある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成する「協働的な学び」である。

個別最適な学びの中では、「個に応じた指導」を一層重視し、指導方法や指導体制の工夫改善により、「個に応じた指導」の充実を図るとともに、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整えることが示された。また「個別最適な学び」が進められるよう、これまで以上に子供の成長やつまずき、悩みなどの理解に努め、個々の興味・関心・意欲等を踏まえてきめ細かく指導・支援することや、子供が自らの学習の状況を把握し、主体的に学習を調整することができるよう促していくことが求められる。その際には、ICTの活用により、学習履歴（スタディ・ログ）や生徒指導上のデータ、健康診断情報等を利活用することが重要と示された。

本校では2013年度より、1人1台端末を活用した教育活動を学校全体で行っている。全員の生徒が、道具としてICTを使いこなしている環境下で、外国語科では令和の日本型教育で示される「個に応じた指導」を推し進めていくため、学習履歴に注目しながら「指導の個別化」「学習の個性化」を図り実践を行いたい。

2 研究の経過

昨年度、外国語科では「CBTの導入による生徒の情意面での変化」、「学習方略の意識化を促す活動を導入した際の生徒の情意面での変化」を研究課題として掲げ、実践研究を行った。

「CBTの導入による生徒の情意面での変化」では、毎回の授業内でCBTを実施し、直後に生徒に結果を示しながら、解説を行った。さらに、次時には前時と同じ問題をもう一度解くという試みを行い、CBTをいかに効果的に使用して生徒の学力を向上させていくか、またその取組を通じ、生徒の学びに対する情意面での変化があったかどうかを、アンケートを行い調査した。

「学習方略の意識化を促す活動を導入した際の生徒の情意面での変化」においては、生徒がCBTを解くだけでなく、自らCBTを作成し、それをクラスメイトに出題し合う活動を行った。生徒のCBT作成に先立ち、北海道教育大学函館校の佐々木昌太郎先生からCBTを含めたテスト作

成のポイントを伺い、それを踏まえたうえでCBT作成を行った。この試みでは、学習者に自らの理解度、理解した道筋について俯瞰を行い、習熟度の高い学習者と低い学習者の相互交流を行わせ、それらの活動を通じて生徒の情意面がどのように変化するかを検証した。

「CBTの導入による生徒の情意面での変化」は、東京書籍のウェブページからダウンロード可能なCBT問題を活用して行った。複数回のCBTと、その後のフォローを繰り返したのち、生徒に行ったアンケート調査では、一部の生徒にモチベーションの向上がみられた。生徒のアンケートからは「即自的に自分の出来を認識できる」ことでの学習意欲の高まり、またCBTそのものに対する興味関心から、「学習意欲が高まる」といった意見がアンケートでは多く上がってきた。

一方、「CBTの活用によって意欲が上がったとはいえない」という生徒も存在した。その理由に関しては、CBTならではの特別な回答の手法に混乱したり、問題自体の不備に、取り組みにくさを感じたりしたほか、回答方法の制約に不自由さを感じるといった、CBTならではの問題点が理由として挙げられた。CBTの取組は一定数の生徒に対して学習へのモチベーションを高める効果が認められたものの、CBTの在り方そのものに工夫が必要であることが分かった。

昨年度の研究において、CBTについては一定の効果があり、特に「知識・技能」において即時のフィードバックを行うことで生徒の能力を高められることを明らかにすることができた。また生徒自身がCBTを作る機会を通して、CBTの長所短所を理解しつつ、教師が授業内でCBTをどのように活用していくかという課題も見つけられた。

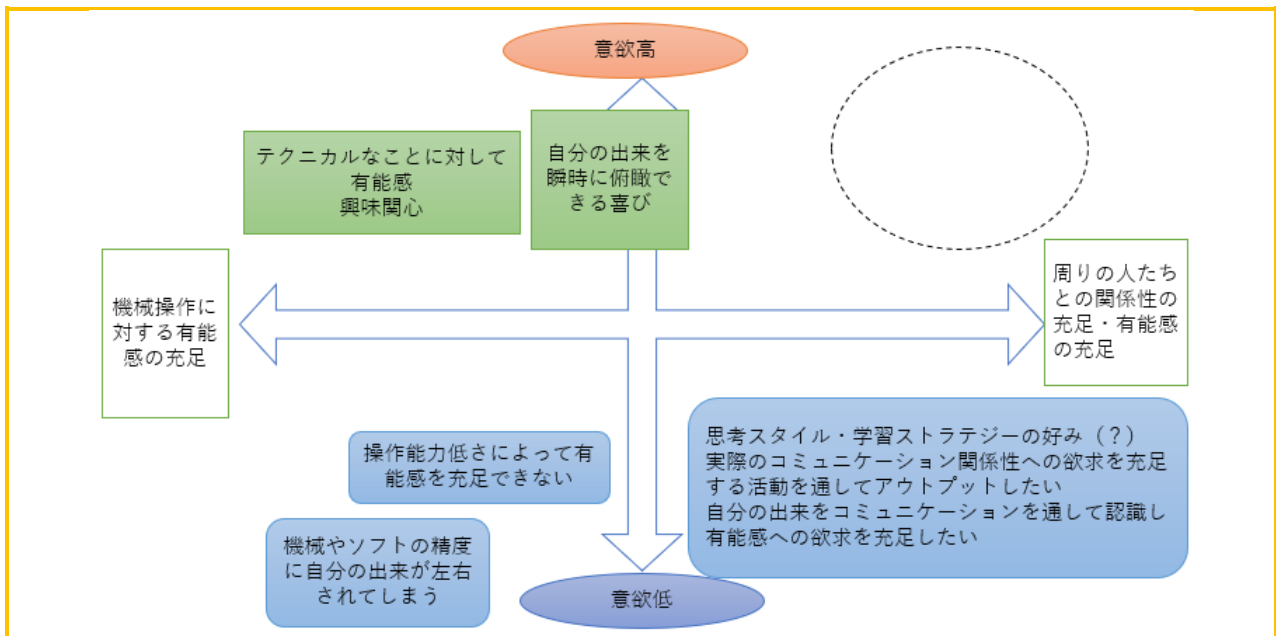


図1 CBTの活用による学習意欲の高まりへのアンケート記述より

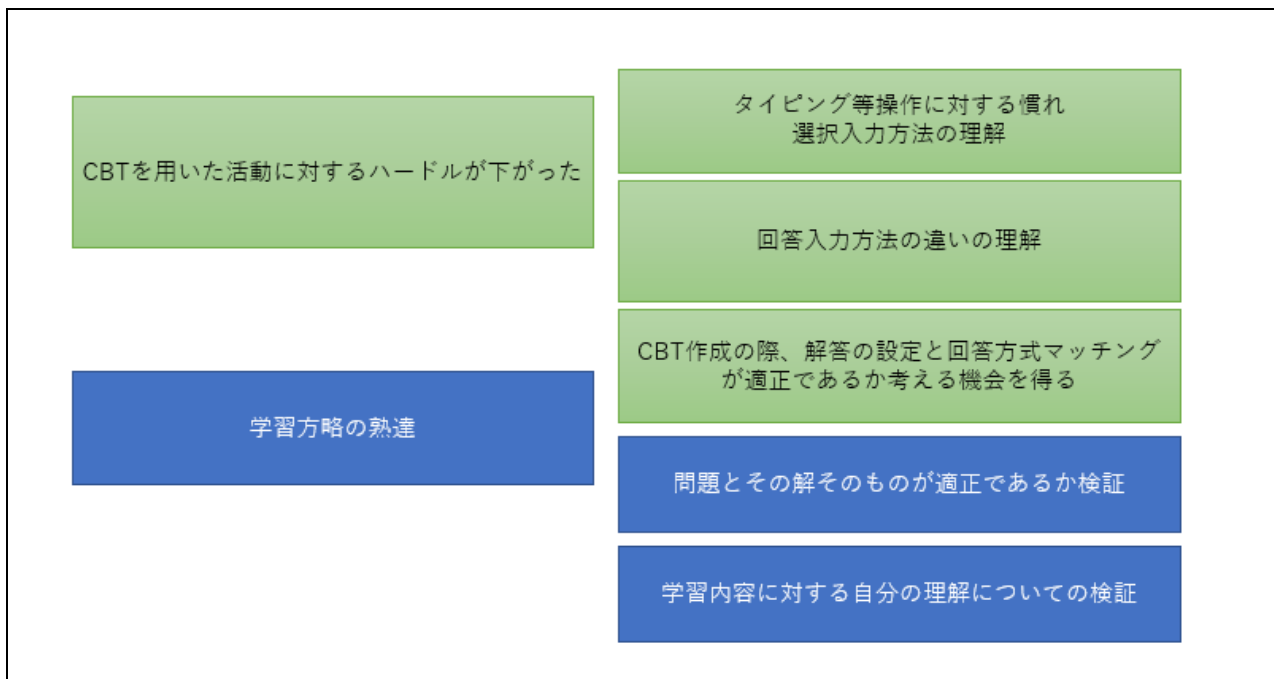


図2 CBT作成後の生徒アンケートより

3 本年度の研究

外国語（英語）科における指導と評価の一体化 ～自己調整する力の育成を目指した学習履歴の利活用～

昨年度はCBTを利用した学習評価の在り方について研究を行い、CBTの導入による生徒の情意面での変化について研究した。昨年度の研究を受けて、今年度は、CBT等の実施により端末内に記録される学習履歴を生徒が自らの学習を振り返る材料として利活用し学習改善を行うことや、教師が生徒の振り返りを材料として指導改善を行うことにより、指導と評価の一体化の実現できるかを検証する。その方策は次のようにまとめることができる。

<生徒の学習改善>

- ① 生徒が自らの学びを振り返る活動（「振り返りシート」の記録）を行うことで、生徒の学習改善が促され自己調整する力が育成される。

<教師の指導改善>

- ① 生徒の学びを振り返る活動を教師が確認し、それらをもとに指導改善を行うことで、生徒の実情に合わせた最適な学びを実現することができる。
- ② 生徒の学びを振り返る活動に対して、アドバイス等のフィードバックを行うことで、生徒の学習改善を促すことができる。

また、上記の活動を通して、生徒の自己調整する力にどのような変化が起こるのかを、生徒の記録の仕方や文章表記の変容や生徒のアンケート（自己評価）を通じて検証する。

4 研究実践例

4.1 「振り返りシート」を活用したフィードバックと生徒の変化を検証する

C B Tでの学習履歴蓄積が定量的であるとする、振り返りシートでの学習履歴は定性的であると捉えられる。学習を振り返る中で、生徒は点数には表れることのない生徒自身の内面を記述する。生徒にとって振り返りシートは、自分の学習を振り返ることで、自ら課題を見つけ、学びの改善を自己調整していくための手段になる。また、教員にとっては、生徒の現状を把握し、手立てを講じていくための道具となる。このような点で、振り返りシートの活用は大変効果的であると考えられる。

今年度は昨年度まで活用してきた振り返りシートに、教員が積極的なフィードバックを加えることで、生徒の学びがどのように変化していくかを検証していく。

4.1.1 「振り返りシート」のねらい

生徒が自ら学習の目標を立てるとともに、毎時間学びを振り返り、次の学びに繋げていくことができるよう、これまでも振り返りシートを活用してきた。当初は紙での運用であったが、一人一台端末環境により、スプレッドシートが利用可能な環境となったため、3年前にスプレッドシートを活用した形に作り替えた。このことにより、毎回教員がシートを回収しなくても生徒の現状を即座に確認することができるようになった。(図3「振り返りシート」フォーマット参照)

また各生徒の振り返りシートをタブで分けて、同じシートにまとめたことで、生徒同士がクラスメイトのコメントを閲覧したり、質問に回答したりすることが可能になり、生徒同士での学び合いや交流が活発になった。

導入当初は誤って他人のシートにコメントを入力したり、入力方法に戸惑ったりするケースもあったが、数週間もするうちに生徒はスプレッドシートの使用に慣れ、現在は紙よりも素早く入力ができるようになっている。

毎時間の目標と振り返りを目的とした活用、生徒の疑問や質問に対する回答を目的とした活用、単元終了後には生徒に単元を振り返らせ、生徒の振り返りを評価することを目的とした活用など、振り返りシートには様々な活用方法があり、現在では筆者が授業を進めていく中で、振り返りシートは欠かせないものとなっている。

Reflection Sheet

Unit2 Food Travels around the World

評価

【単元の目標】		好きな食べ物やその理由について、紹介文を書くことができる。						
時	日付	家トレ 音読	家トレ ノート	評価	CAN DO	Comments	Question	Answer
家トレ目標				ABC	学習目標	今日の授業で分かったこと、できるようになったことなど	わからなかったこと、疑問に思ったことなど	疑問に対する回答
1				▼				
2				▼				
3				▼				
4				▼				
5				▼				
6				▼				
7				▼				
8				▼				
9				▼				
10				▼				
11				▼				
12				▼				
13				▼				
14				▼				
15				▼				
16				▼				
17				▼				
18				▼				
19				▼				
20				▼				
21				▼				
22				▼				
23				▼				
24				▼				
25				▼				
音 ave	ノート ave	音読 個人	ノート 個人		家庭学習を 振り返って			
0.0	0.0	0	0					

A:完璧! B:かなりできた! C:あまりできなかった

単元の振り返り

英語の技能	ABC	単元を通してできるようになること
聞くこと	▼	接続詞when,if,that,becauseを用いた文を聞き取ることができる。
聞くこと	▼	いつ、何をするか、何かをする際の条件について話されるスピーチの内容を聞き取ることができる。
読むこと	▼	接続詞when,if,that,becauseを用いた文を読み、内容を読み取ることができる。
読むこと	▼	料理や食文化の歴史や変化について書かれた文を読み、概要を捉えることができる。
話すこと(やりとり)	▼	友達が来た時に紹介したいレストランとその理由について伝えられる。
話すこと(発表)	▼	ある時や条件ですることについて接続詞when,ifなどを使って伝えることができる。
書くこと	▼	接続詞when,if,that,becauseを用いた文の形・意味・用法を理解して文を書ける。
書くこと	▼	おすすめのレストランを紹介する文章を書くことができる。

この単元でわかったこと、できるようになったこと、次の単元で頑張りたいことなどを記入。
授業で理解したことを具体的に記入したり、次の単元や次回テストの目標を数値で書いたりしよう。

図3 「振り返りシート」フォーマット

4.1.2 これまでの「振り返りシート」の運用

振り返りシートには単元（ユニット）の目標が書いてあり、生徒は単元の初めに、目標を確認した後、家で自主的に行う2つのトレーニングの目標を立てる。ひとつは「音読」の回数であり、もう一つは「ノート」のページ数である。生徒はこれらをシートに記入し、授業があった日にそれぞれについてどれだけ取り組むことができたのかを記入する。（図4 家トレーニング「音読」「ノート」フォーマット参照）

毎時間の振り返りでは生徒は自身の取り組みを「A完璧！」「Bかなりできた！」「Cあまりできなかった」の3段階で自己評価を行う。

また、授業の始まりに係の生徒が、係生徒のみが入力できるシートの「学習目標」の欄に、教員が黒板などに板書して示した本時の学習目標を打ち込むと、全員のシートに学習目標が反映されるようになっている。この目標の横には生徒が「今日の授業で分かったこと、できるようになったこと」を記入する欄があり、毎時間授業の終わり5分程度で、生徒がその日を振り返って理解したことやできるようになったことを書き込む。この活動を通して、生徒は目標を振り返り、自分自身がその目標に対して努力することができたか、また、その結果本時の目標を達成することができたかを振り返ることができる。（図5 振り返りシート記入例参照）

さらに隣の欄には「わからなかったこと、疑問に思ったことなど」を書く欄がある。生徒は授業を振り返った結果、授業内で起こり、その中では理解できなかったことや、授業を通して湧き上がってきた疑問について、この欄に書き込むことができる。毎時間この振り返りを蓄積していくことで、生徒は前時に行った授業について振り返りながら、本時で積み重ねていった知識について体系的に理解することができ、自分の中の理解している部分、理解できなかった部分を整理しながら授業に臨むことができる。（図6 振り返りシート記入例 コメント部分記入参照）

生徒が記入した質問に関しては、クラスメイトが全員閲覧、編集可能となっている。「もし質問に答えられる人がいたら友達のシートに回答をしてください」と教員が事前に伝えている。生徒の中にはクラスメイトのスプレッドシートを閲覧し、質問に対する解答を行う者がいる。また、質問に答えるために自ら調べ学習を行い、クラスメイトの質問に回答するケースもある。他の生徒の質問に回答しようと調べ作業をすることで、回答する生徒自身の学力も高まり、他の人の役に立っているという自己肯定感も育むことができる。（図7 振り返りシート記入例 生徒がクラスメイトの質問に対して回答を記入する参照）

教員は随時シートをチェックして、質問に対する回答が入っているかを確認する。生徒からの回答が寄せられそうな質問に関しては、教員がすぐ回答することはせず、様子を見る。しばらく様子を見たが、回答が入らないような質問に関しては教員が回答を入れ、同じく色を付けて終了とする。（図8 振り返りシート記入例 その後教員もコメントを加え、色を付ける参照）（図9 振り返りシート記入例 生徒がクラスメイトの質問に対して回答を記入する参照）（図10 振り返りシート記入例 教員が回答を記入した参照）

単元の終了後に、生徒は自らの取り組みを振り返る。家での音読・ノート回数は、自動で集計されて下に合計が出るようになっている。また、クラスでの平均も出る形になっているので、生徒は周りの生徒と比較も行いながら、自分の学習について振り返りを行う。（図11 家トレーニング音読・ノート合計部分のセル参照）

その後、生徒は「家庭学習を振り返って」を記入する。生徒は自ら目標にした家トレ音読数やノートのページ数も参考にしながら、自らの家庭学習を振り返る。教員はその内容を確認して、場合によってはコメントを入れる。（図12 振り返りシート記入例 家庭学習を振り返って参照）

（図13 振り返りシート記入例 家庭学習を振り返って 教員のコメント例参照）

続いて生徒は単元の振り返りを行う。振り返りシートには単元（ユニット）毎にあらかじめ「聞く・読む・話す・書く」の4技能5領域で「単元を通してできるようになること」の目標が記載さ

れている。生徒は単元の最初に振り返りシートを確認し、音読やノートの目標を設定する際に、これらの項目も確認できる。

単元の終了後に生徒は「単元を通してできるようになること」の項目を確認しながら、自分が実際にできるようになったことについて振り返り、「A完璧!」「Bかなりできた!」「Cあまりできなかった」の3段階で自己評価を行う。(図14 振り返りシート記入例 単元の振り返り参照)

最後に生徒はこれらの振り返りをもとに、「単元で分かったこと」をまとめる。ここでのまとめを行うために、生徒は毎時間自分が記入したコメントを見直し、できるようになったことについて確認を行い、更に次の単元で頑張りたいことを考え、記入する。教員はこのシートも内容を確認したうえで、状況に応じてコメントを加える。

最終的にこれらが記入された振り返りシートを、「主体的に学びに向かう力」についての評価材料として教師が使用する。振り返りシートの再提出も認めることで、生徒自身の自己調整の取組への工夫も促すことができるようになる。(図15 振り返りシート記入例 単元で分かったこと参照) (図16 振り返りシート記入例 単元で分かったこと 教員のコメント例参照)

振り返りシートは単元(ユニット)毎に用意しており、一つの単元が始まる時に新しいシートを共有する仕組みになっている。以前の振り返りシートはクラスルームに残っているため、生徒はいつでも自分の過去の学習を振り返ることができる。振り返りシートを活用しながら、生徒が自らの学習を調整し、自らの学習を工夫していくことが可能になる。

時	日付	家トレ音読	家トレノート	評価
家トレ目標				ABC

時	日付	家トレ音読	家トレノート	評価
家トレ目標		30	50	ABC

図4 家トレーニング「音読」「ノート」フォーマット

A: 完璧! B: かなりできた! C: あまりできなかった

時	日付	家トレ音読	家トレノート	評価	CAN DO	Comments	Question	Answer
家トレ目標		50	30	ABC	学習目標	今日の授業で分かったこと、できるようになったことなど	わからなかったこと、疑問に思ったことなど	疑問に対する回答
1	5/29	4	0	A-	「~のときに」という表現を理解できる。	今日は、Whenという「~のとき」という意味の接続詞について学ぶ事ができたから良かった。単語の意味も理解できた。		
2	5/30	0	2	A-	Whenの表現を理解して本文を読める。	今日は、CBTをしたりいろんな人と会話をして交流することができたから良かった。単語の発音(seeすいー)などが大事だと感じた。		
3	5/31	3	0	A-	「もし~ならば」の表現を理解できる。	今日は「もし~ならば」という意味のIfの表現を理解できた。単語もたくさんあったので、家トレノートで予習・復習をしたい。		
4	6/2	0	0	A-	「もし~ならば」の表現に注意して問題を解ける。	今日は、ifを使った問題やwillの含んだ問題などを解いて復習をする事ができたし、理解もできたから良かった。		

図5 振り返りシート記入例

CAN DO	Comments
学習目標	今日の授業で分かったこと、できるようになったことなど
「~のときに」という表現を理解できる。	今日は、Whenという「~のとき」という意味の接続詞について学ぶ事ができたから良かった。単語の意味も理解できた。
Whenの表現を理解して本文を読める。	今日は、CBTをしたりいろんな人と会話をして交流することができたから良かった。単語の発音(seeすいー)などが大事だと感じた。

図6 振り返りシート記入例 コメント部分記入

Question	Answer
わからなかったこと、 疑問に思ったことなど	疑問に対する回答
本場の人はIfやWhenを最初と後ではどっちに持ってくることが多いのか	2つの情報の中でも古い情報と新しい情報に分ける。聞き手が知っている古い情報→聞き手が知らない新しい情報という順序で流れていく。あとに来る情報が大事な情報になる。だからあとに来る情報に接続詞をつけているだけなのであとにつけるほうが多い。by==

図7 振り返りシート記入例 生徒がクラスメイトの質問に対して回答を記入する

Question	Answer
わからなかったこと、 疑問に思ったことなど	疑問に対する回答
本場の人はIfやWhenを最初と後ではどっちに持ってくることが多いのか	2つの情報の中でも古い情報と新しい情報に分ける。聞き手が知っている古い情報→聞き手が知らない新しい情報という順序で流れていく。あとに来る情報が大事な情報になる。だからあとに来る情報に接続詞をつけているだけなのであとにつけるほうが多い。by== 上手な説明SG

図8 振り返りシート記入例 その後教員もコメントを加え、色を付ける (SGは教員の名前サイン)

前に習った、originallyという単語は、昔から私の認識では「オリジナル、特別な」という意味だと思っていたが、なぜはじめはという意味なのか。また、firstとはまた違う意味なのか。	originallyという単語は「独自の、初めの」という意味があるので「オリジナルの」という認識も間違いではないと思います。 firstは、「1回目・初めて」という意味があるので若干ニュアンスが違うのではないかと思います by△△ ありがとうございます！== orijinという単語には「起源」という意味があります。それを変形させたorijinallyには「もともとは」という意味がありますし、そこが「起源」「はじまり」のものということは他にはない「オリジナル」な「独自の」ものですねSG
--	--

図9 振り返りシート記入例 生徒がクラスメイトの質問に対して回答を記入する

Question	Answer
わからなかったこと、 疑問に思ったことなど	疑問に対する回答
Creative (クリエイティブ) とCreate (クリエイト) の違い	形容詞と動詞の違いです。調べてみると面白いですよSG

図10 振り返りシート記入例 教員が回答を記入した例

音 ave	ノート ave	音読 個人	ノート 個人
29.1	28.1	30	49

図11 家トレーニング 音読・ノート合計部分のセル

家庭学習を振り返って	今回のUNIT2では、前回の「UNIT1」のときに自分が達成することが出来なかった、英語の家庭学習である「家トレ音読」と「家トレノート」の目標を、前回よりも日々の英語の家庭学習を努力していったことで、達成することが出来たので、とても良かったです。このいまの調子で、「UNIT3」のときにも、今まで以上にしっかり前期期末テストに向けた英語のテスト勉強をどんどんすすめていながら、今回の「UNIT2」で自分が立てた目標よりも更に上の目標を決めて、しっかり自分は決めたその単元での目標を達成することが出来るように、これからも毎日家での「家トレ音読」や「家トレノート」などの英語の家庭学習をどんどん進めていって、次の前期期末テストに向けて、頑張っていきたいです。
------------	---

図 12 振り返りシート記入例 家庭学習を振り返って

家庭学習を振り返って	今回のUNIT2では、前回の「UNIT1」のときに自分が達成することが出来なかった、英語の家庭学習である「家トレ音読」と「家トレノート」の目標を、前回よりも日々の英語の家庭学習を努力していったことで、達成することが出来たので、とても良かったです。このいまの調子で、「UNIT3」のときにも、今まで以上にしっかり前期期末テストに向けた英語のテスト勉強をどんどんすすめていながら、今回の「UNIT2」で自分が立てた目標よりも更に上の目標を決めて、しっかり自分は決めたその単元での目標を達成することが出来るように、これからも毎日家での「家トレ音読」や「家トレノート」などの英語の家庭学習をどんどん進めていって、次の前期期末テストに向けて、頑張っていきたいです。 どちらも100回超え立派ですね。家での学習がきっとパワーアップに繋がっていますよSG
------------	---

図 13 振り返りシート記入例 家庭学習を振り返って 教員のコメント例

単元の振り返り

A: 完璧! B: かなりできた! C: あまりできなかった

英語の技能	ABC	単元を通してできるようになること
聞くこと	A	不定詞を用いた文の意味を理解して対話の内容を聞くことができる。
聞くこと	A	仕事の内容などについて話された対話の概要を捉えることができる。
読むこと	A	大切だと思う事や、すべきことなどについて書かれた文を読み取ることができる。
読むこと	A	自分の将来像や夢について考えるために、すべきことなどについて書かれた文の概要を捉えることができる。
話すこと(やりとり)	A	お互いの夢について、たずねたり答えたりすることができる。
話すこと(発表)	B	夢実現のためにしていることや、職業について情報を整理して説明できる。
書くこと	A	不定詞を用いた文の意味を理解して文を書くことができる。
書くこと	A	自分の将来像や夢について考えるために、すべきことなどについて書くことができる。

図 14 振り返りシート記入例 単元の振り返り

この単元でわかったこと、できるようになったこと、次の単元で頑張りたいことなどを記入。

授業で理解したことを具体的に記入したり、次の単元や次回テストの目標を数値で書いたりしよう。

今回の単元で、4種類の接続詞を扱えるようになって、それぞれを用いて文を作ったり、その意味を理解することが出来た。特に、なぜならという表現のbecauseは、使う場面が多いと思った。Unit1に続いて、またNew wordが増えたので、よく使いそうなものや、線を引いた単語などを中心にしっかり暗記しておきたい。また、授業中にやったワークシートで、初めて黒板に書くことが出来たので、その時のように早く丁寧に間違えずに、習った表現を使えるようにしていきたい。今回のリスニングのテストは自分にしては全体的に間違いが少なかったと思ったので、Unit3も気を抜かずリスニングテストで良い点を出せるようにしたい。今回のUnitで習ったことの中にMayやcouldなど、少し似た意味のものがあってそれを頭の中で整理して、テストなどで混ざらないようにしておく。そのために黄色ワークやワクワークで練習をして対策しておきたい。パフォーマンステストで、スライドに接続詞4種類をまとめて、自分の中で結構整理することができたので、これからはパフォーマンステストじゃなくても、出来たらやっていきたいと思った。家トレは、どちらも目標を達成することが出来てなかったので、もう少し意識して、音読とかもできる時があったら数ページやって、目標を確実に達成できるようにしたい。Unit1より少し家庭学習の量が減ったと思ったので、特に英語はいつ休んでも授業に遅れないように日々、予習復習はしっかりとやっていきたい。

図 15 振り返りシート記入例 単元で分かったこと

この単元でわかったこと、できるようになったこと、次の単元で頑張りたいことなどを記入。
 授業で理解したことを具体的に記入したり、次の単元や次回テストの目標を数値で書いたりしよう。

今回の単元で、4種類の接続詞を扱えるようになって、それぞれを用いて文を作ったり、その意味を理解することが出来た。特に、なぜならという表現のbecauseは、使う場面が多いと思った。Unit1に続いて、またNew wordが増えたので、よく使いそうなものや、線を引いた単語などを中心にしっかり暗記しておきたい。また、授業中にやったワークシートで、初めて黒板に書くことが出来たので、その時のように早く丁寧に間違えずに、習った表現を使えるようにしていきたい。今回のリスニングのテストは自分としては全体的に間違いが少なかったと思ったので、Unit3も気を抜かずリスニングテストで良い点を出せるようにしたい。今回のUnitで習ったことの中にMayやcouldなど、少し似た意味のものがあるそれを頭の中で整理して、テストなどで混ざらないようにしておく。そのために黄色ワークやワークで練習をして対策をしておきたい。パフォーマンステストで、スライドに接続詞4種類をまとめて、自分の中で結構整理することができたので、これからはパフォーマンステストじゃなくても、出来たらやってみようと思った。家トレは、どちらも目標を達成することが出来てなかったで、もう少し意識して、音読とかもできる時があったら数ページやって、目標を確実に達成できるようにしたい。Unit1より少し家庭学習の量が減ったと思ったので、特に英語はいつ休んでも授業に遅れないように日々、予習復習はしっかりとやっておきたい。
 振り返り具体的に素晴らしい、この先も続けよう！SG

図 16 振り返りシート記入例 単元で分かったこと 教員のコメント例

4.1.3 今年度研究における「振り返りシート」の活用方法

昨年度までの「振り返りシート」運用においては、教員からのコメントは、生徒からの質問に回答する場合や、特別にアドバイスをしたいことがあった時などに限って行われるものであった。通常時に、生徒のコメントを確認はするが、そこについてフィードバックは行っていなかった。

今年度の研究ではこの振り返りシートに、教師がコメントを積極的に残すことで、生徒が自己調整しようとする力をより高めて行けるかどうかを検証したいと考えた。教員が確認したコメントに関して、質問等が記載されていない場合でも、適宜フィードバックを返し、このことにより生徒の学習に向かう姿勢がどう変化していくかを見取ることにした。

そこで今年度は、細かく振り返りシートを確認し、質問がない場合でも、教員側が何かを書くことができると感じた場合は、生徒のコメントに対して積極的にフィードバックを返していった。質問に対する回答のコメントは継続しつつ、新たな試みを加えて、生徒の学びに向かう姿勢がどのように変化していくかを、今年度の研究を通して見極めていきたいと考えた。

Reflection Sheet					Unit2 Food Travels around the World			評価A++++
【単元の目標】								A:完璧! B:かなりできた! C:あまりできなかった
時	日付	家トレ 言語	家トレ ノート	評価	CAN DO	Comments	Question	Answer
家トレ目標	60	50	ABC		学習目標	今日の授業で分かったこと、できるようになったことなど	わからなかったこと、疑問に思ったことなど	疑問に対する回答
3	5/31	9	8	A-	「もし～ならば」の表現を理解できる。	今日の授業では、「もし～ならば」の英語の表現の仕方についてしっかり理解しながら、本文を読んだりすることが出来たので良		
4	6/2	9	9	A-	「もし～ならば」の表現に注意して問題を解ける。	今日は、前回の授業で習った、「もし～ならば」の英語の表現の仕方を利用した様々な問題を、しっかりその問題に使われている英語		
5	6/5	8	6	A-	「～と思う」の表現を理解できる。	今日の授業では、「～と思う」という英語の新しい表現の意味や使い		
6	6/6	8	8	A-	thatの使い方を理解して問題を解ける。	今日は、「That (that)」を使った英語の単語や文の表現の仕方について、ノ		
7	6/7	9	9	A-	テスト範囲をまとめる。	今日の授業では、今までの授業で習った総復習を細かいところまで		
8	6/8	5	4	A-	テスト前張り切る。	今日の授業では、昨日の授業でやったことほほわわはありませ		
9	6/12	5	5	A-	テストふり	今日の授業では、以前をこなった前期中間テストの振り返り、沢	誰かと一緒に勉強すると、自分が	気分がよい部分をつくることがで
10	6/13	6	4	A-	「なぜなら」の表現を理解できる。	今日の授業では、「なぜなら……」の英語表現や、それを使った文		
11	6/14	3	3	A-	becauseの使い方を理解して質問に答える。	今日の授業では、「Because (because)」という英語の表現につい		
12	6/15	4	5	A-	Unit2本文終える。	今日の授業では、Unit2の本文について、様々な重要な単語や英語		
13	6/16	2	6	A-	おすすめのレストランについて伝えることができる。	今日の授業では、おすすめのレストランについての紹介を、スライ		
14	6/19	6	4	A-	場面や相手に応じて丁寧に許可を求めたり依頼したりすることがで	今日の授業では、教科書の本文をしっかりと読んだり、隣のひとと会		
15	6/20	3	5	A-	MayとCouldを理解して問題を解ける。	今日の授業では、「May (I)～」や「Could (you)～」の新しい英語		
16	6/21	6	6	A-	インタビューと聞き質問の内容や答えを聞き取ることができる。	今日の授業では、沢山の友達に「自由時間には何をやるか」とい		
17	6/22	7	4	A-	Unit2まとめる。	今日の授業では、Unit2のまとめを、本文を今までのところを見		
18	6/29	5	3	A-	Unit2仕上げ。	今日の授業では、前回の授業でまとめた、Unit2の単語や英語の表	それぞれの活動を前向きに取り組	めていて素晴らしいですねSG

図 17 生徒から質問はなかったが、生徒のコメントに対して教員がフィードバックを記入した例

「本文を読んで練習したい」というコメントした生徒にデジタル教科書の使用を提案した

Becauseの文でBecauseのルール、置く決まりはわかったけど、単語がわからないところがあったのでわからない単語を分ける単語にできるよう、単語帳で単語を覚えたい。似ている文法が何個もあったあやふやになっているのでもう一度Unit2の本文を読みたい。		デジタル教科書も活用してみてくださいSG
---	--	----------------------

生徒の雑談的な振り返りにコメントを行った

今日はおすすめのレストランについて話し合いました。〇〇ちゃんはハンバーグが好きで、〇〇ちゃんのおすすめのレストランはFireバーグというところだとわかりました。ちなみに私は生ハムが好きです。		私も生ハム好きですおいしいよねSG
---	--	-------------------

単語の覚え方についてアドバイスを行った

リスニングをやって、リスニングを聞いているときにメモを取って内容を理解したいと思いました。先生が言っていたように、単語を覚えるときはノートに覚えられない単語を書くと覚えるので継続したいと思いました。		声に出しながら書くと更に効率UP！SG
---	--	---------------------

ワークの活用方法について生徒にアドバイスを行った

今回の授業では、黄色ワークを使って問題を解き進めたが、現在形と過去形の区別をよく忘れていたので、これからはそのようなところにも気を配って問題を解いていきたいと思った。		わからないときは1年生パートに戻って復習するのも効果的ですSG
---	--	---------------------------------

5 成果と課題

5.1 振り返りシートを活用したフィードバックと生徒の変化を検証する

今年度初めから振り返りシートに適宜コメントを加える活動を行い、夏休み前のアンケートで、生徒がどのように感じているかを確認した。アンケート内容は「リフレクション（振り返り）シートはあなたの学習改善することに役立っていますか？」というものである。

生徒の回答では振り返りシートについて、学習改善するための効果があったと書かれているものが多かった。

コメントの例では「先生のコメントをみて、新たな知識を得ることができました。数字を見て、家トレや音読を頑張ろうとおもえるようになりました。」あるいは「質問や疑問を気軽に友達、先生に尋ねることができて役立った」または「先生のコメントや自分の家庭学習の数字をみて次どれだけやるかなど計画的にやることができたのでとても役立っています。」というものであり、生徒自身が自身の学びについて自己調整する姿が見受けられた。

今回の研究において、振り返りシートに教員が積極的にコメントを入れていくという試みは、生徒が学びに向かおうとする意欲を高め、自己調整を促す手段として、ある程度の効果があるという結果を得ることができた。しかし、生徒全員が、効果があったと振り返っていたわけではないので、どのようなタイミングでコメントを書くとより効果が上がるのか、あるいはどのようなコメント内容を書くと、生徒の意欲が高まっていくのかを検証していく必要がある。

また、生徒の自己調整が、実際に知識・技能や思考・判断・表現の場面において、連動して効果を上げているかを検証していくことが今後の課題である。

アンケートの回答一例

リフレクションシートはあなたの学習改善をすることに役立っていますか？コメントしてみてください（先生のコメントを見て頑張りました、お友達の質問回答を頑張りました、数字を見て家トレを頑張ろうと思えるようになりました等・・・）

32 件の回答

自分は今まであまり英語の勉強の習慣化ができていなかったけど、最初に目標を決めることで頑張ることができるようになったと思う。

先生のコメントや自分の家庭学習の数字をみて次どれだけやるかなど計画的にやることができたのでとても役立っています。

先生のコメントをみて、新たな知識を得ることができました。数字を見て、家トレや音読を頑張ろうとおもえるようになりました。

リフレクションシートによって自分が今学んでいる単元の理解が深まったり、その単元と学校でやっている単元の結びつきを意識できるようになった。

人が書いてる質問を見て、自分もたしかになんでだろうと思って聞いてみたり調べたりすることができたので役に立っている

自分がどこを克服したらいいかを理解できる。

リフレクションで自分が何ができていないか確認しながら練習できる

6 おわりに

今回の研究により、教員が生徒の学習履歴である振り返り（リフレクション）シートに、適宜コメントを残すことにより、生徒の学びに向かう力を高めることができたと考えられる。また教師も、生徒のコメントや質問を細かく確認していくことで、授業内で足りなかった部分、生徒の理解が追いつかなかった部分を確認することができる。このことにより、次の授業で生徒が理解していなかった部分を教師が再度伝えること、振り返りシートで自己認識することができた生徒が自分の苦手な学習内容弱点について補強するためテストを行うなどの手を打つことが可能となる。

生徒からの質問がない状態でも、積極的に教員から手を加えていくことは、生徒が自己調整を行っていくうえで、効果があると思われたが、この試みが、実際に知識・技能、あるいは思考・判断・表現を問われる問題において、生徒の資質能力を高めるものになっているかを、後期を通して、検証していきたい。

（文責 匂坂卓雄）

<参考文献>

- ・令和4年度北海道教育大学教育研究大会 外国語科研究紀要/北海道教育大学附属函館中学校
- ・「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）（中教審第228号）/中央教育審議会
- ・指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料【中学校外国語】/文部科学省国立教育政策研究所
- ・中学校学習指導要領/文部科学省

- ・ 中学校学習指導要領 外国語編/文部科学省
- ・ 主体的に学習に取り組む態度の評価と育て方 学びの「エンゲージメント」/櫻井茂雄/図書文化
- ・ 1人1台端末活用のミライを変える！BYOD/BYAD 入門/中川一史 北海道教育大学附属函館中学校
編著/明治図書